

## 我が国の大学における核融合研究に関する資料調査

## Archival Studies on the Nuclear Fusion Research at Universities in Japan

難波忠清、藤田順治<sup>1)</sup>、大林治夫<sup>1)</sup>、寺嶋由之介<sup>2)</sup>、木村一枝、西尾成子<sup>3)</sup>、植松英穂<sup>3)</sup>、佐藤浩之助<sup>4)</sup>、佐藤徳芳<sup>5)</sup>、高岩義信<sup>6)</sup>、川上一郎<sup>7)</sup>、竹田辰興<sup>8)</sup>、小島智恵子<sup>9)</sup>

核融合研、<sup>1)</sup>核融合研(名誉教授) <sup>2)</sup>名大(名誉教授) <sup>3)</sup>日大理工、<sup>4)</sup>九大応力研、<sup>5)</sup>東北大(名誉教授) <sup>6)</sup>高エネルギー加速器研究機構、<sup>7)</sup>日大(名誉教授) <sup>8)</sup>電通大、<sup>9)</sup>日大商

NAMBA, C., FUJITA, J.<sup>1)</sup>, OBAYASHI, H.<sup>1)</sup>, TERASHIMA, Y.<sup>2)</sup>, KIMURA, K., NISIO, S.<sup>3)</sup>, UEMATSU, E.<sup>3)</sup>, SATO, K.N.<sup>4)</sup>, SATO, N.<sup>5)</sup>, TAKAIWA, Y.<sup>6)</sup>, KAWAKAMI, I.<sup>7)</sup>, TAKEDA, T.<sup>8)</sup>, KOJIMA, C.<sup>9)</sup>

NIFS, <sup>1)</sup>NIFS(Prof. Em.), <sup>2)</sup>Nagoya Univ. (Prof. Em.), <sup>3)</sup>Nihon Univ., Col of Sci. & Tech. <sup>4)</sup>Kyushu Univ., RIAM, <sup>5)</sup>Tohoku Univ. (Prof. Em.), <sup>6)</sup>KEK, IPNS, <sup>7)</sup>Nihon Univ. (Prof. Em.), <sup>8)</sup>Univ. of Elec.-Commu., <sup>9)</sup>Nihon Univ. Col. of Bus.

## 1. 調査研究の背景と目的

我が国の大学における核融合研究開発が如何に進められてきたかについて歴史的な資料に基づき明らかにしていくことは、社会と他分野の研究者に対する説明責任を果たすためにも、また今後の研究の進展を図るためにも必要となる。このような観点から、研究推進に係わる基本的資料を、収集・整理・データベース化することにより、広く関係研究者の利用に供しようという目的のもとに、核融合科学研究所(NIFS)の共同研究(西尾成子代表)の一環として、主に大学関係の関連資料を中心とした標題の調査研究を始めた。

## 2. 調査研究の進捗状況

- (1) 資料の収集と整理・データベース化：既に各方面のご協力により収集できた資料については整理を進め、順次データベース化の作業を遂行している。1999～2002年に、延べ約1万項目(「資料の提供元の異なる同一資料」の重複を含む)がリストアップされた。資料毎にID番号を付して封筒に入れ、それを約300個の段ボール箱に格納し、仮保管している。将来的には図書館または研究所アーカイブズに収納し、公開・開示を目指す方向で動いている。
- (2) 資料の能動的収集：本研究では、貴重な資料が散逸・破棄される前に時機を失することなく収集し、また極力系統的な資料の整備を目標とする。そのために能動的資料収集を行っている。その一環として、インタビュー形式での資料化を試みた。関口忠・東大名誉教授に、2000年8月と2002年4月の2回にわたってお話しを聞いた[第1回記録：NIFS-MEMO-33、第2回記録：NIFS-MEMO-40]
- (3) 資料の活用：未だ極めて不完全な資料ではあるが、原則的公開を前提として活用促進のための準備を進めている。目録データベースは公開できる状態であり、既に若干の希望された研究者に対しては資料の閲覧を含め、活用していただいている。

## 3. 今後の課題

資料の充実・整備と、その有効活用に向けた恒常的管理運用体制(研究所アーカイブズ)の確立。国内外の関連機関活動との協力。